

テーマ「司馬遼太郎が遺したもの」

～その作品世界の魅力～

司馬遼太郎が72歳6か月で亡くなってから21年が経ちました。1956年に『ペルシャの幻術師』で作家デビューして以来、40年間の作家生活の中で、司馬遼太郎は独特の俯瞰法と乱世史観で個人と歴史のかかわり方、それも歴史にコミットした、時代と激しくクロスした人物たちを小説の中に描き出しました。そして、多角性と多様性に富んだグローバルな視点から歴史をとらえた、評論・随想・紀行文などで日本とは、日本人とは何かを問い続けました。こうした彼の軌跡と魅力を追うとともに、21世紀になってもなお20世紀末の不安を引きずったままの現代社会を考える上からも、『この国のかたち』などで日本の行く末を案じた司馬遼太郎が遺したものを検証していきます。

日時：平成29年6月22日（木）

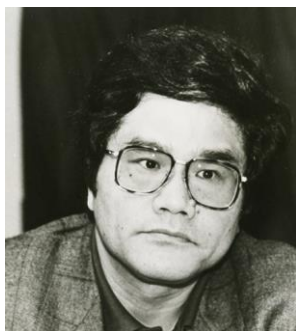
13時30分～15時30分（受付：13時より）

場所：所沢まちづくりセンター中央公民館 ホール

所沢市元町27番5号（電話番号 2926-9355）

講師：文芸評論家 清原 康正先生

プロフィール



文芸評論家、日本ペンクラブ理事、日本文藝家協会会員（編纂委員）、県立神奈川近代文学館専務理事、日中文化交流協会会員。

朝日カルチャー・東急セミナーの小説教室や調布市民カルチャーの歴史と文学講座、各地での歴史講座や小説・エッセイ教室などの講師を務める。

主著に『中山義秀の生涯』『山本周五郎のことば』『歴史小説の人生ノート』『小説を書きたい人の本』など

共著に『昭和文学の風景』『まげもののぞき眼鏡—大衆文学の世界』など
編著に『史談の広場・全8巻』『歴史小説名作館・全12巻』など

参加費：無 料 事前の参加申込みは不要、直接会場にお越しください。

主催：所沢まちづくりセンター中央公民館

協力：サークル「漆の実」（文学愛好者による中央公民館登録団体）

司馬遼太郎（1923-1996）

大阪市に生まれ、大阪外国語学校蒙古語科卒業、産経新聞社勤務中から時代小説を執筆、昭和35年『梟の城』で第42回直木賞受賞。その後、菊池寛賞、吉川英治文学賞、読売文学賞、大佛次郎賞などを受賞。平成5年文化勲章受章。

『竜馬がゆく』『坂の上の雲』『翔ぶが如く』など“司馬史観”と呼ばれる著書多数。紀行随筆『街道をゆく』を週刊朝日に連載。東大阪市に「司馬遼太郎記念館」がある。

